

甲状腺腫を触知するようになった。本症例の発育は正常でDQも116である。

以上の3例の経験から一担新生児一過性甲状腺機能低下症と診断した症例においても、軽度の合成障害の存在を念頭において長期にわたる経過観察が重要であることを強調した。

新生児クレチン症マススクリーニング(昭和50年12月～昭和56年12月) における初期診断の結果とその後の追跡による結果

マススクリーニング総数 212700

呼出し数 220 (1/967)

初診時何らかの異常を
認めた症例数 60 (1/3545)

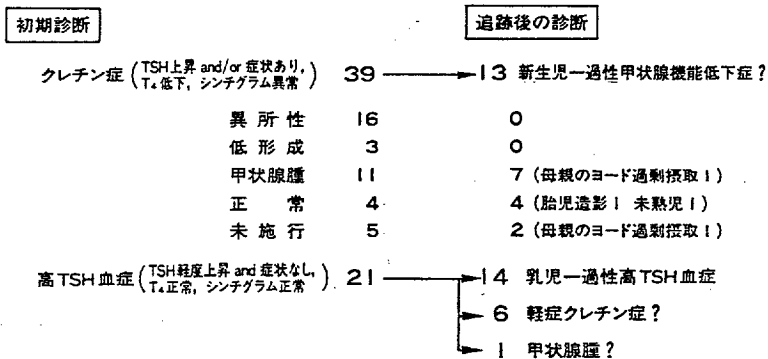


図1

兵庫県におけるクレチン症マス・スクリーニングの現状

兵庫医科大学臨床病理学 松岡 瑛
兵庫医科大学中央臨床検査部 佐藤 良樹
住 勝実
植村 博之

我々が兵庫県内において、1979年7月から1982年12月現在までに実施してきた新生児クレチン症のマス・スクリーニングについて受診率の年次推移と発見率、及び発見した症例の地域別、発生月別、性別などについて報告する。

表1は我々が行ったスクリーニングの結果で、兵庫県では1979年7月から1982年12月まで、神戸市では1980年4月から1982年12月までの集計である。全体で約21万件行い、クレチン症は19例発見されている。発生頻度は11,245分の1で全国平均よりやや低い頻度で(昭和55年度集計では約8000分の1

あった。また、一過性甲状腺機能低下症のものが別に3例みられた。この3例について、図1、図2、図3にその血中 TSH 値の経過を示した。3例とも当初治療を優先したが、いずれも速やかに血中 TSH が $6\mu\text{U/ml}$ 以下となった。また、精密検査により一過性甲状腺機能低下症と診断されたものである。

表2は、年別にみた月平均スクリーニング数とスクリーニング実施率及び出生数を表にまとめたものである。この表にみられる如く、出生数は年々減少し、神戸市を除く兵庫県では月平均数で1979年を100%とすると出生減少率は1980年で95.4%、1981年は91.5%となっている。神戸市ではスクリーニングを開始した1980年を100%とすると出生減少率は1981年で97.9%、1982年は97.6%と兵庫県と同じく減少傾向がみられている。

出生数に対し、スクリーニング実施率は年々増加傾向があり、月平均数で神戸市を除く兵庫県でも、神戸市の場合においても年々増加している、両者を比較すると都市部である神戸市の方が実施率が高いことがわかった。また神戸市で1982年のスクリーニング実施率が100.5%となったが月別の重複が若干あったと考えられる。

図4は、兵庫県と神戸市のスクリーニングで発見されたクレチン症全例について月別、男女別の分布をみたものである。男女別では、一過性甲状腺機能低下症も含め、男児8名、女児14名と女児が倍近く発生しているのは全国集計とよく一致している。月別では、秋冬に多く、春夏に少ない傾向がみられた。

図5は神戸市及び兵庫県において発見されたクレチン症と、一過性甲状腺機能低下症について地域別にプロットしたもので、神戸市に4例、阪神間に4例と1例の一過性甲状腺機能低下症、他の群市部にクレチン症10例、2例の一過性甲状腺機能低下症がみられた。全県的にみた場合、県南部の都市部及び淡路島に集中し、県北部での陽性者はいまのところない。

以上、今回は疫学的調査について述べた。昨年の集計で15例のクレチン症を発表したが、さらに4例が発見され19例となっている。また、一過性甲状腺機能低下症は新たに1例発見され3例となっている。

表1 クレチン症スクリーニングの結果

	スクリーニング数	クレチン症(頻度)	一過性甲状腺機能低下症
兵庫県	170381	15 (1/11359)	3
神戸市	43272	4 (1/10818)	0
合計	213653	19 (1/11245)	3

兵庫県 (1979.7~1982.12)

神戸市 (1980.4~1982.12)

表2 出生数とスクリーニング数の年次推移

	1979 (7 ~ 12月)		1980 (1 ~ 12月)		1981 (1 ~ 12月)		1982 (1 ~ 12月)	
	総 数	月平均数	総 数	月平均数	総 数	月平均数	総 数	月平均数
兵 庫 県								
出 生 数	27,367	4,561	52,194	4,350	50,064	4,172	—	—
出 生 減 少 率	—	100.0%	—	95.4%	—	91.5%	—	—
ス ク リ ー ニ ン グ 数	25,461	4,244	49,494	4,125	47,567	3,964	47,859	3,988
実 施 率	—	93.0%	—	94.8%	—	95.0%	—	—
			(4 ~ 12月)		(1 ~ 12月)		(1 ~ 8月)	
神 戸 市								
出 生 数	—	—	12,371	1,375	16,155	1,346	10,738	1,342
出 生 減 少 率	—	—	—	100.0%	—	97.9%	—	97.6%
ス ク リ ー ニ ン グ 数	—	—	11,908	1,323	15,597	1,300	10,793	1,349
実 施 率	—	—	—	96.2%	—	96.6%	—	100.5%
合 計								
出 生 数	27,367	4,561	64,565	3,075	66,219	2,759	—	—
ス ク リ ー ニ ン グ 数	25,461	4,244	61,402	2,924	63,164	2,632	58,652	—
実 施 率	—	93.0%	—	95.1%	—	95.4%	—	—

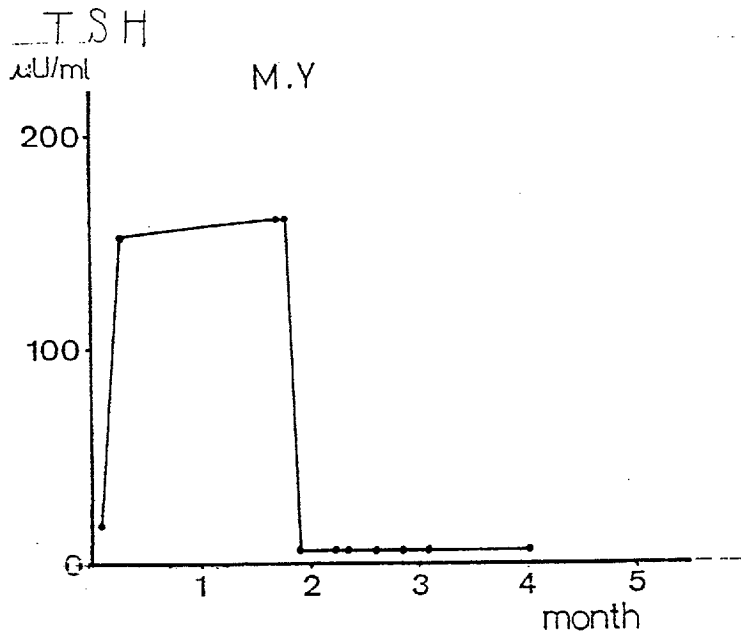


图1

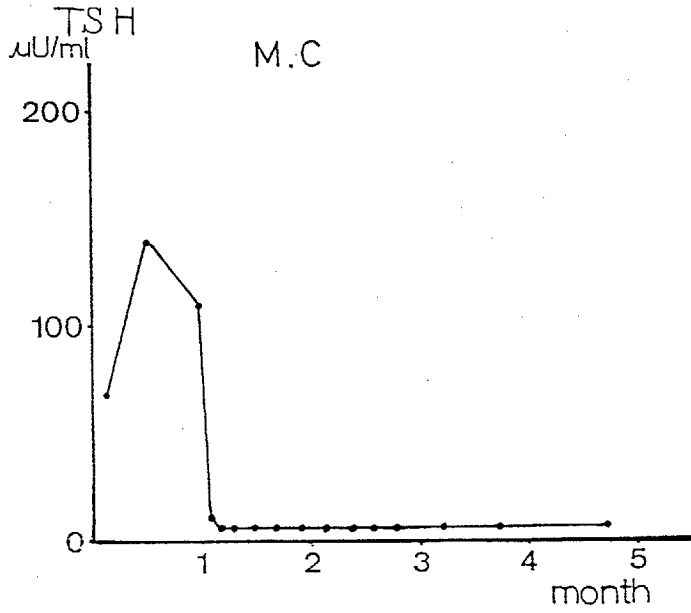


图2

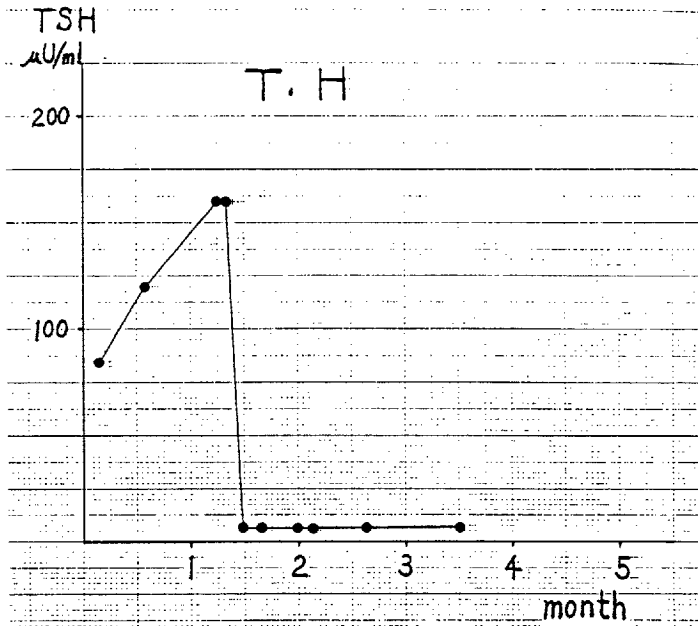


图3

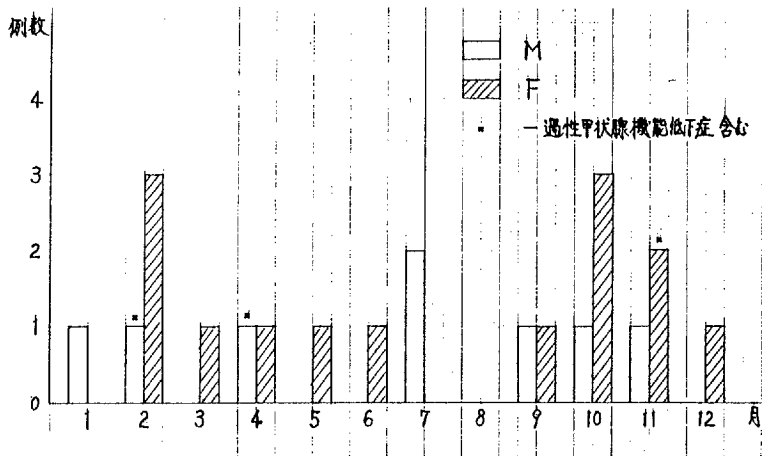


图4 月别, 男女别分布图

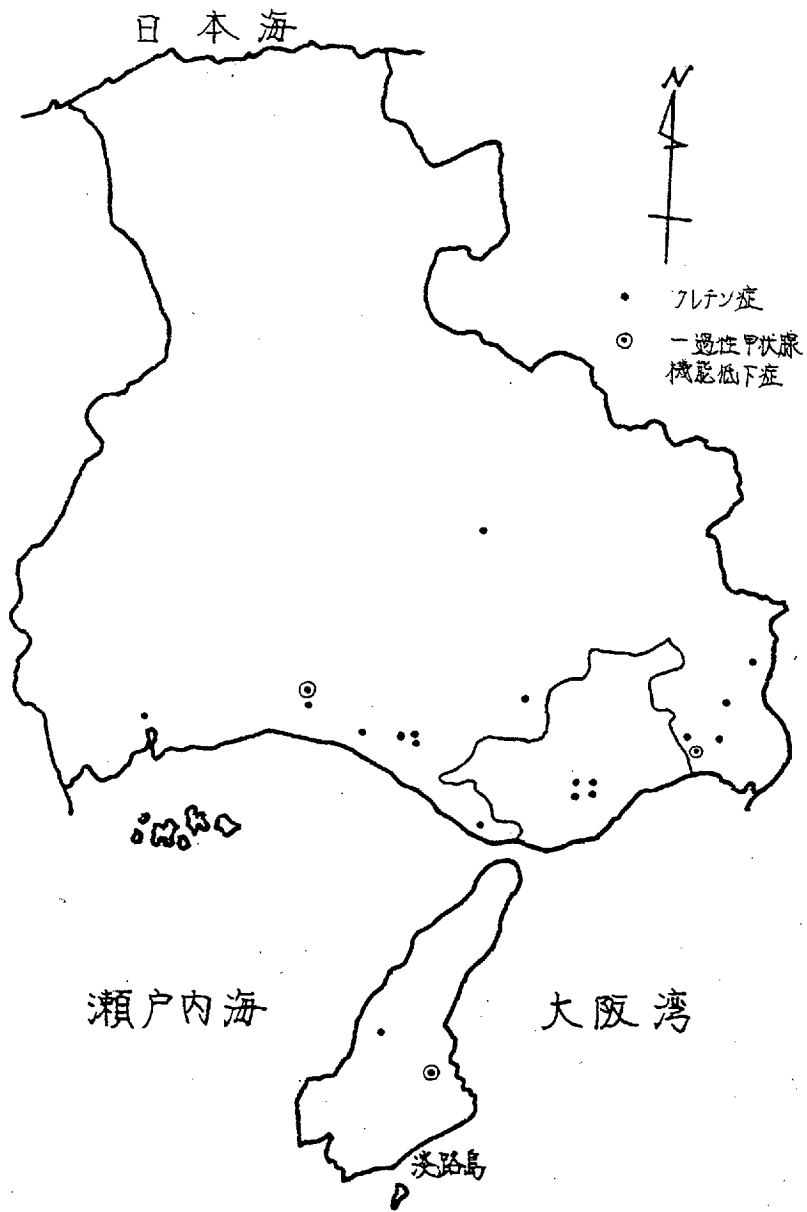
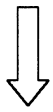


図5 兵庫県内における陽性者の分布



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



我々が兵庫県内において、1979年7月から1982年12月現在までに実施してきた新生児クレチン症のマス・スクリーニングについて受診率の年次推移と発見率、及び発見した症例の地域別、発生月別、性別などについて報告する。